



【編集】
富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies

タラの芽の季節です

グランドの北側に高木のない空き地があり、昨年森作り事業で下草が刈られました。その中に沢山のタラノキが生えていましたが、これまでは、あまり収穫されていなかったようで、棒状の木が何十本も素直に伸びています。今年は、容易に近づくことができ、タラの芽の収穫ができます。ただし、この空き地には、明確には分からないのですが、学園の敷地と他人地との境界が走っているようですので、控え目に収穫してください。

タラの芽は、先端の頂芽を欠いても、脇芽がでてくるので、採取に躊躇する必要はないようです。しかし、脇芽までどんどん採取すると、樹形が乱れ、さらには枯死してしまいます。また、頂芽が最も美味しく、脇芽はあまり美味しくないとされています。もっとも、これは、乱獲の戒めかもしれません。

タラの芽は、山菜の女王とされ絶妙の美味しさを持つなどと言われています。クセが全くなく、天ぷらや御浸しなどで間違いなく美味しく味わえます。しかし、味音痴で語彙の少ない私には、味を言葉でうまく表現することができません。舌触りなどはともかく、固有の香りや甘みなどもなかなか感じ取ることができません。インターネットでタラの芽を賛美する言葉はいろいろと見かけますが、共感できる表現は見当たりません。

タラノキは、雑木林を伐採した空き地にまず生えてくる先駆性陽

樹です。寿命も短く、大木には育たないようです。大学の

西側、片山学園へ下る道の途中の貯水層の向かい側の雑木林で、3,4 年前にコナラなどの雑木を全て伐採(皆伐)した部分があります。ここでは、下草の刈取りなど手入れが続けられていますが、伸びてきたタラノキは残されており、タラの芽が収穫できる時期に入っています。ただし、丁寧に管理を続けている所有者がおられますから、勝手に収穫してはいけません。

